

1. 課題

持続可能な目標（SDGs）は 2015 年に制定された。17 目標をもって、世界に本格的な変化をもたらすための主要な発展領域が定められた。ミレニアム開発目標（MDGs）と同様に、SDGs を実行に移し、勢いづけることは困難である。貧困やその他すべての関連し合う SDGs が十分に進んでいない。状況が悪化し、加盟国の一部は、現在の新型コロナウイルス感染症パンデミックの影響下でさらなる苦境に立たされている。



ソーシャルワーク専門職の懸念は、パンデミック後、またこれからの 5～10 年間にわたってグローバルなガバナンスに重大な影響を与えていくと予測されているグローバルな経済混乱によって、SDGs の行動計画が後回しにされることである。残念ながら、我々ソーシャルワーカーが実践の中で協働している人々やコミュニティへの深刻な悪影響が予想される。また、富裕層とすでに貧困状態の下で生活している大多数の人々の間にある格差が拡大し、社会における既存の不平等がグローバルにもローカルにも深刻化していくであろう。さらに、グローバルな失敗、間違った開発、そしてこれらの悪影響の下でしばしば最も苦しむ人々が、これらの社会問題や自然環境の問題に最も加担していない人々であるという不公平な矛盾を**環境正義**と呼んでいる。これは、個人やコミュニティの安定を脅かすものである。このようなグローバルな課題によって、**グローバルな変革の必要性**が強調される。

本ポリシーペーパーでは、以下を確認する。

- a) IFSW による国連の SDGs に対する支持の表明
- b) 国連の SDGs へのソーシャルワークの専門的な貢献の公言

2. 背景

ソーシャルワークはなぜ国連の SDGs を支持するか

国連のアジェンダ 2030 は画期的な合意である。歴史上、合計 193 ヶ国が共通の行動計画を制定し、同意した前例はない。SDGs は、**社会的、経済的、環境的**な課題という 3 つの柱から構成されており、これらは 17 目標と変化を促す 169 指標を定めている。すべての目標と指標は同等な価値があり、相互に関連し合っているが、該当する行動は各国や地域によって異なる。相互関連性は、あらゆる変化と開発において、社会的、経済的、環境的な成果が等しく含まなければならないことを意味する。すなわち、同等規模の社会的、環境的な影響を無くして、経済的な目標は成り立たない。

さらに、SDGs は今や、各国政府、多国間組織、非政府組織（NGO）、経済界においてグローバルな会話の一部となっている。世界中のソーシャルワーカーはすでに積極的に参加し、本格的な変化をもたらすために、それぞれの実践コミュニティと一緒に活動している。これらの活動については、IFSW によって出版

されているグローバルアジェンダ報告書、その他のソーシャルワーカーによる発行物と世界ソーシャルワークデーにおける数々の貢献においても示されている。懸念されるのは、新型コロナウイルス感染症からの復興とともに、これらの肯定的な進展の一部が、その後予測されるグローバルな経済が受ける津波によるあらゆる危機の中で失われるかもしれないということである。

SDGs の目標は野心的なものである。グローバル市民社会の 2019 年の集中報告書によれば、国連の SDGs の変革的な力への期待が大きかったにも関わらず、採択 5 年後にはほとんどの国々が掲げられた目標の達成に遅れている。各国政府は、国連の SDGs の変革的なビジョンに向けたそれぞれの取り組みを巡って苦心している¹。

同じく、2019 年に国連の研究グループも否定的な結果を報告している。十分な行動がとられず、多くの国々が国連の SDGs の達成に向けて努力を注いでいないことが判明してから、国連は言葉を変えて、すべてのレベルにおいて行動を呼びかけている。つまり、もっと多くの人々が活動に参加し、取り組みをコーディネートしなければならない。国連の SDGs に関する専門家会議は、国連のアジェンダ 2030 の最初の 4 年間を通して得た教訓を次のようにまとめている。

「[略] 全社会的なアプローチが重要である。対象層に届けるのみでなく、彼らをエンパワーし、基本的なサービスへのアクセスだけでなく、機会を提供しなければならない。その反面、社会においてのみでなく、各国政府の中でも意識の高揚もまた特に重要である。」²

国連総長は、行動への呼びかけの中で、職業、社会階層、地域、国を超えて、すべての人々が、これらの目標の達成のために斬新な解決策と強い施策を作り出すことに協力しなければならないと述べている³。

IFSW は、ソーシャルワーク専門職こそが強力で認められたパートナーになり得るところか、そうでなければならぬと承知している。しかし、掲げられている 17 目標のすべてについて構造的な変革が必要である。住宅、自然環境、社会保護はその数例であるが、それだけではない。

IFSW は、国連の社会開発目標を肯定し、支持し、それらがグローバルなレベルで社会的、経済的、環境的な変革を促す勢いと機会を与えていることを認めている。

ソーシャルワーカーはどのように国連の SDGs に貢献するか

SDGs のソーシャルワーク的な定義

国連の SDGs がソーシャルワークに与えている手段と、ソーシャルワークが国連の SDGs に与えている手段の有効活用を保障するために、**持続可能性**、**開発**、**目標**といった用語に関するソーシャルワークの定義と理解を明確化することが重要である。なぜならば、これはソーシャルワークが自ら掲げる使命になるからである。

持続可能性 ソーシャルワーカーは、持続可能性を、現在から将来に及ぶ世代のために、人間と自然を含む生態系全体のウェルビーイングに向けた長期的な解決策を確立できる方法と政策として理解している。持続可能性には、何よりも危害や不正義を軽減するために、「エコロジカル・フットプリント」または消費様式の側面を減少させる方法が含まれている。エコロジカル・フットプリントは、我々人類がエネルギー、食糧、土地、水資源を消費することで世界に与える負荷を概算したものである⁴。

¹ Global Civil Society Report on the 2030 Agenda and the SDGs (2019). Spotlight report 2019.

² United Nations (2019). The future is now.

³ United Nations (2020). Ten years to transform our world.

⁴ IFSW ウェブサイト、IFSW ワークブック・シリーズ *Social Work Promoting Community and Environmental Sustainability*、IFSW 気候正義プログラム、*The Global Agenda for Social Work and Social Development (2010-2020)*を参照

気候変動は無視できないグローバルな課題である。気候変動は今や気候危機になり、未曾有な自然災害の発生が予測されるような限界点が迫ってきている。この地球は、人間の移動、産業汚染、有毒な農業様式、土壌浸食、砂漠化、自然環境全般に及ぶ破壊により、水、土、空気の汚染が明らかに進行している。それゆえに、人々が自然から取ったものを返すという健全な循環をもつことが到達すべき目標である。IFSW は、「グローバル化と自然環境」に関するポリシーペーパーの中で、次のように呼びかけている。

「[略] 今日と将来の世代のために、ソーシャルワーク実践及び管理運営において環境的な責任と保護を推進し、自然環境をより健全なものにし、またソーシャルワーク教育において環境問題がより大きな存在意義をもつことを保障することを目指して、他の専門職と協力しながら知識を増やし、さらにはあらゆるコミュニティとの協働の下、アドボカシーのスキルと戦略を発展させなければならない。」⁵

開発 人々（社会全体）、平和、そして地球にとっての最善の利益がすべての活動の中心でなければならない。大多数の人々の肩の上に、ほんの一部の少数者の利益が乗っているという状況は、経済最優先型の開発の否定的な側面である。ソーシャルワーカーからすれば、「開発」は経済的な意味で理解されるものでもなければ、「低開発」の集団や社会は「高開発」集団や社会を規範としたレベルに到達すべきものとして定義されるものでもない。開発は、人々と地球のウェルビーイングを追求・探求する人々、集団、社会におけるダイナミックですべてを包括する変化のプロセスである。ソーシャルワーカーは、例えば潜在能力アプローチ⁶のように、社会の歴史的、文化的、環境的な基盤に配慮したさまざまな理論を考慮する。したがって、ソーシャルワーカーの行動は、社会正義と人権、また自由とウェルビーイングを達成するための包括的で持続可能な開発の原理に導かれている⁷。「開発」と「変遷」の言葉は密接に関連し合っている。開発はプロセス中心な概念でありながら、変遷の目的は、これまでになかった状況・状態への完全なる変化である。両者とも、ビジョンと、すべての人のために持続可能で実現可能な最善の成果をもたらす全社会的なアプローチ、すなわちコミュニティが創造、計画、実行、評価のすべての段階に参画するアプローチを必要としている。

目標 ソーシャルワーカーは、IFSW によるソーシャルワークのグローバルアジェンダに従って固有の目標をもち、形成してきた。ソーシャルワークのグローバル定義、倫理声明、各種ポリシーペーパーは、いずれもソーシャルワーク活動に対するニーズ及びその目標の理解を表している。我々のソーシャルワーク・アプローチでは、目標を主に（コミュニティと人々が主導する）ボトムアップの参加型の手法で形成し、そこには人々の知識とニーズが含まれている（誰一人も取り残さない）。

パートナーシップ — ソーシャルワークの基本原則

ソーシャルワーカーにとって、パートナーになることは、知識や見識を分かち合い、協力と結束を通じて解決策を導き出すことを意味する。

IFSW のビジョンと倫理原則には、ソーシャルワーク専門職が他のパートナーとともに戦略的に取り組む責務を遂行ことが含まれている。IFSW の会員は、すでに国連機関と各国政府と協働することで、コミュニティ間の関わりと、SDGs やその他の国連の行動計画の実現に貢献している。ソーシャルワークは、個人、集団、市民社会と一緒に、理論と実践、またローカルとナショナルな当局の間の橋渡しを行っている。構造的な要因を分析することは、コミュニティを擁護し、さまざまなパートナーと分かち合うソーシャルワーク固有の責任を果たすために必要である。

⁵ IFSW (2012). Policy Paper on Globalization and the Environment.

⁶ OPHI. (2021). Introducing the Capability Approach.

⁷ IFSW (2014). Definition of Social Work.

ボトムアップとトップダウン

ソーシャルワーカーは、このボトムアップのアプローチと、国連の SDGs のよりトップダウンのアプローチの組み合わせが、行政の規制的な取り組み（政策文書、グローバルな各種計画など）と実践（人々や市民社会との日常実践、実施運営など）の間のギャップを埋めるための大きな可能性を秘めているように理解している。

グローバルな各種政策及び計画は、経済的な影響もある。また、その逆の場合もある。そのため、現在の不平等なグローバル資本主義は、新しい持続可能なグローバル金融システムに変換されなければならない。このような新しいシステムは、人々と地球の両方の搾取を禁止し、連帯と公平性、また社会全体と自然環境の改善を基盤とする。ソーシャルワーカーは、社会変革と社会開発を促し、人々と自然の搾取、さらには少数者の手の中への富の集中を許す不公正な構造に対抗し続けていく。

新型コロナウイルス感染症パンデミックの後

新型コロナウイルス感染症パンデミック後の世界は、SDGs のアジェンダが制定された 2015 年の世界と大きく異なる。新型コロナウイルス感染症パンデミックは今や、グローバル経済の将来の原動力の一つとしてみなされている。パンデミックは、未曾有な社会変化をもたらした。一方、気候正義の課題はもう一つの主要な要素として浮上し、上述の 3 つの柱が大いに顕著化され、重要になってきている。ソーシャルワーク専門職の活動もますます可視化されていくであろう。したがって、IFSW には、この課題に引き続き取り組み、以前に合意が得られた SDGs の支持に関するグローバルな運動を支えることが求められている。

要するに、IFSW の目標を、「誰一人も取り残さない」というビジョンをもって、それらが公正で公平な世界に向けたグローバルな変革を価値としているため、国連の SDGs と一致させなければならない。国連の SDGs は、その秘めている膨大な可能性と背景にあるグローバルな合意の方がそのあらゆる欠点よりも大きく、すべてのレベルにおける行動のための未曾有な合意枠組みとなっている。

3. ソーシャルワークの各種プログラムへの国連の SDGs の取り入れに係る IFSW ポリシー声明

「世界の変革」や「誰一人も取り残さない」という明文化された共通のグローバルな目標の達成に向けて有効で持続可能な影響を及ぼせることは、現在、勢いがついている。グローバルとナショナルな行動計画は、我々ソーシャルワーカーが実践の中で協働している人々とコミュニティ、またその環境にとって重要である。このように考えると、ソーシャルワーク専門職は、コミュニティの人々の政策目標に対する問題意識や関心事を伝達し、表明することに貢献できるゆえに、国連の SDGs とその希望にとって主要なパートナーである。

ソーシャルワークの観点からすれば、我々はコミュニティに対して透明性と参画に必要な情報と教育を提供することで、人々の権利を促進している（ボトムアップのアプローチ）。我々は、すべての人々の貢献を強調し、インフラ整備、制度、サービスに関する政策レベルの意思決定に影響を与えるために努力している。さらに、変化をアドボケートする者として、ソーシャルワーカーは移行を促すことで、正義、公平性、連帯のある、環境にやさしい世界への変革を実現できるようにコミュニティに働きかけている。

ソーシャルワーカーは、国連の SDGs を各種方策（社会的、経済的、環境的）に移し、実行できる持続可能な解決策に関する新しい知を一緒に作り上げるために、ローカル、ナショナル、国的なレベルでコミュニティ内とさまざまなパートナー間の協働を促し、養っている。

4. 本ポリシーペーパーの示唆

IFSW は以下のように呼びかける。

- ソーシャルワーカーがローカルなレベルで見かける国連の SDGs の実行に関する機会と不備に対処すること。最終的には、すべての政策策定、政策的な意思決定、予算編成において、国連の SDGs が定める目標に対する行政の説明責任と義務を、バランス（上述の 3 つの柱）を保って認めなければならない。
- ソーシャルワーカーは変化の促進者であるように自覚すること。国連の SDGs は、包括的で学際的な多領域の成果・アプローチを確立させるために、他の専門職、パートナー、社会運動、利害関係者と連携する特有のネットワークを提供している。
- 気候正義の必要性を明言すること。これは、すでに気候危機の以前より立場の弱い状況におかれていた、我々が実践の中で協働している人々に悪影響を及びしている問題である。したがって、ソーシャルワーカーとその協会は持続可能で環境にやさしい解決策に強い使命をもたなければならない。
- 強い協働関係を構築し、国連の持続可能な開発目標の実現をともに支持するために、グローバル、ナショナル、ローカルな行政に働きかけること。行政は、社会政策と国連の持続可能な開発目標の達成においてソーシャルワークを人権重視の専門職として認めなければならない。
- 社会サービスの提言を行うこと。また、各種パートナーや利害関係者に見えるような形で、有力で高度な技術をもつソーシャルワーク専門職と各国のソーシャルワーク協会を推進しなければならない。
- ソーシャルワーク教育、養成校、養成のカリキュラムに、社会保護制度、国連の SDGs、また本書における批判的なガイドラインを統合すること。
- 権力関係の批判的な分析と、今後の行動計画及び政策に積極的に貢献できるように会員を支援すること。

本ポリシーペーパーは、2019-2021 年任期の IFSW 国連諮問委員長の主導の下で作成され、2021 年 3 月に IFSW グローバル理事会が採択したものである。

5. 参考文献

- IFSW (2012). *Globalization and the Environment*. Found in May 2020 under <https://www.ifsw.org/globalisation-and-the-environment/>
- IFSW (2014). *Global Definition of Social Work*. Found in March 2020 under <https://www.ifsw.org/what-is-social-work/global-definition-of-social-work/>
- IFSW (2016). *The role of social work in social protection systems. The Universal right to social protection. Policy paper*. Found in Jan 2020 under: <https://www.ifsw.org/the-role-of-social-work-in-social-protection-systems-the-universal-right-to-social-protection/>

- IFSW (2018). *Social Work Statement of ethical principles*. Found in Jan. 2020 under <https://www.ifsw.org/global-social-work-statement-of-ethical-principles/>
- OPHI (2021). *Introduction to the Capability Approach*. Found in Jan. 2021 under <https://ophi.org.uk/introduction-to-the-capability-approach-2/>
- Powers, Meredith et al. (2020). 'De-growth for transformational alternatives as radical social work practice'. In *Critical and Radical Social Work*, Vol 7, No 3, (pp. 417-433). Policy Press. Found under: https://www.researchgate.net/publication/336766528_Degrowth_for_transformational_alternatives_as_radical_social_work_practice
- Reflecting group on the 2030 Agenda (2019). *Spotlight Report 2019*. Found in February 2020 under: https://www.2030spotlight.org/en/book/1730/chapter/1-increasing-concentration-wealth-and-economic-power-obstacle-sustainable#footnote10_utsqgho
- Sustainable Development. (2019). *Knowledge Platform*. Found in February 2020 under: <https://sustainabledevelopment.un.org/sdgs>
- The Partnering Initiative and United Nations Department of Economic and Social Affairs (2019). *Maximising the impact of partnership for the SDGs*. Found in February 2020 under: https://sustainabledevelopment.un.org/content/documents/2564Partnerships_for_the_SDGs_Maximising_Value_Guidebook_Final.pdf
- UNDP (2018). *What does it mean to leave no one behind?* Found in February 2020 under <https://www.undp.org/content/undp/en/home/librarypage/poverty-reduction/what-does-it-mean-to-leave-no-one-behind-.html>
- United Nations (2019). *The future is now*. Found in February 2020 under: https://sustainabledevelopment.un.org/content/documents/24797GSDR_report_2019.pdf
- United Nations (2020). *Ten years to transform our world*. Found in February 2020 under: <https://www.un.org/sustainabledevelopment/decade-of-action/>
- United Nations Development Programme and Oxford Poverty and Human Development Initiative (2019). *Global Multidimensional Poverty Index 2019*. https://ophi.org.uk/wp-content/uploads/G-MPI_Report_2019_pdf

6. 見直し

諸ポリシーペーパーは、各種ポリシー声明に係る IFSW ポリシーペーパーに基づいて、その採択後 6 年以内に見直されることとなっている。本ポリシーペーパーは、2027 年に見直される予定である。